

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会レガシー

第3回『補助犬フォーラム』

～「誰一人取り残されない社会」への提案～



平成31年2月15日（金）

於 衆議院第一議員会館 国際会議室

主催 公益財団法人 日本補助犬協会

～「誰一人取り残されない社会」への提案～

日本補助犬協会は、平成24年より「もっと知って補助犬キャンペーン」を開催しております。それは、身体障害者補助犬法が成立（平成14年）して10年以上が経つにもかかわらず、補助犬についての社会の認知度が低いままであり、公共交通機関や民間の店舗、宿泊施設などにおける補助犬受け入れ拒否が後を絶たず、その名の通り「補助犬をもっと知って頂きたい」という思いからでした。

昨年12月1日より開催中の「第6回もっと知って補助犬キャンペーン」もいよいよ、キャンペーン中最大のイベントとなる「補助犬フォーラム」を2月15日に開催する運びとなりました。

「補助犬フォーラム」では、「心のバリアフリー検定」と「補助犬シンポジウム」の2つのプログラムを準備し、「誰一人取り残されない社会」の実現に向けて私達が担うべき役割を考え、キャンペーンを通じて積極的に提案していきたいと思っております。

「誰一人取り残されない社会」とは、国連が定めた2030年に向けての持続的な開発目標（SDGs）のキーワードとなっています。障害者差別解消法や「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の目指す共生社会も同様の考え方です。身体に障害を持つ方々が補助犬と共に自立し、社会参加を目指そうとする時、そこにどのような現実があるのか。そして、その方々を決して「取り残さない」ためには、社会はどうあるべきなのか。補助犬ユーザー、受け入れ企業様、有識者などをお招きして共に議論を取り交わし、現状の把握と、たどるべき未来を探って参りたいと思います。

第3回「補助犬フォーラム」 大会長
公益財団法人日本補助犬協会 代表理事 朴 善子

第2回の「補助犬シンポジウム」の様子 平成29年8月3日



シンポジウムの様子



パピー委託式の様子

概 要

1. 日 時 : 平成31年2月15日(金) 10:00~16:30
10:00~12:00 プログラム1「心のバリアフリー検定」
13:30~16:30 プログラム2「補助犬シンポジウム」
※13時から「障がい体験ワークショップ」コーナーを開設します。
2. 場 所 : 衆議院第一議員会館 1階 国際会議室
3. 内 容 : プログラム1「心のバリアフリー検定」
プログラム2「補助犬シンポジウム」
4. 定 員 : 先着100名
5. 主 催 者 : 公益財団法人日本補助犬協会

プログラム1「心のバリアフリー検定」



プログラム2「補助犬シンポジウム」



障がい体験ワークショップ



プログラム1 「心のバリアフリー検定」

国は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に「誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現」を目指し、国民に「心のバリアフリー研修」を推進しています。本「心のバリアフリー検定」では「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づいた研修プログラムの内容をカバーしており、更に他のセミナーでは忘れられがちな、身体障害者補助犬ユーザーの困りごととも網羅しております。

～レジюме～

ご挨拶

前半 : 「多数派に合わせてつくられた社会」

後半 : 「心のバリアフリーを理解する3つのポイント」

- 1、「障害の社会モデル」の理解
- 2、「合理的配慮」の理解
- 3、「コミュニケーション力」を養う

検定試験

記念撮影

※本「心のバリアフリー検定」は、当協会が実施する内閣府公益認定事業「補助犬ガイド士養成講座」の初級に相当します。更に、障害当事者向け「日本補助犬協会認定講師」養成のための必須資格です。



検定合格者には公益財団法人日本補助犬協会「心のバリアフリー検定認定証」が発行されます。

過去の「心のバリアフリー検定」の様子



講師のご紹介

主任講師：朴 善子



公益財団法人日本補助犬協会 代表理事

平成 14 年身体障害者補助犬法施行を機に、3種類の補助犬を育成・認定する日本補助犬協会を設立。盲導犬・介助犬・聴導犬の訓練士及び指導員を現任。内閣官房『ユニバーサルデザイン 2020 関係府省等連絡会議「心のバリアフリー分科会」』及び「ユニバーサルデザイン 2020 評価会議」委員。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクセシビリティ協議会「アクセシビリティ・ガイドライン作業部会」委員、新国立競技場整備事業「ユニバーサルワークショップ」委員など。

障害当事者講師：青木 保潔



(盲導犬エマ)

公益財団法人日本補助犬協会 評議員
補助犬ガイド士

日本補助犬協会認定講師

DPI 日本会議 障害当事者リーダー

全国補助犬ユーザー連合会 代表

全国盲導犬使用者の会 会員



講師陣（聴導犬ユーザー）



経営者・管理者向け検定

プログラム2 「補助犬シンポジウム」

受付 12:45~13:15

○第一部 ~補助犬の育成現場から~ 13:30~14:15
パピー犬ファミリー : 疋田ファミリー
コースチェンジ犬ファミリー : 野村ファミリー
引退犬ファミリー : 奥ファミリー
補助犬の訓練について
感謝状贈呈式

ファシリテーター: 雑賀 由美子 公益財団法人日本補助犬協会 訓練部長、
盲導犬歩行指導員、白杖歩行指導員、社会福祉

士

○第二部 ~補助犬ユーザーの立場から~ 14:30~15:15
盲導犬ユーザーの日常 : 山梨県の皆様
介助犬ユーザーの就労 : 岩手県の皆様
聴導犬ユーザーの困りごと : 神奈川県の皆様

ファシリテーター: 安杖 直人 公益財団法人日本補助犬協会 広報部長、
社会福祉士、介助犬ユーザー

○第三部 パネルディスカッション 15:30~16:30
「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」政府による取り組み
内閣官房 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部
参事官補佐 栗田 信行 氏

テーマ : 「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」加速化への取り組み
~心のバリアフリー~

パネリスト : オリンピック・パラリンピック等経済界協議会 名畑 徹 氏
トヨタ自動車株式会社 藤澤 誠 氏
公益社団法人 東京都獣医師会 小林 元郎 氏
全国補助犬ユーザー連合会 青木 保潔 氏
全国介助犬ユーザー連絡会 阿部 容子 氏
全国聴導犬ユーザー連絡会 福永 順子 氏
公益財団法人 日本補助犬協会 桑原 奈知子 氏
全国補助犬育成・認定法人連合会 雑賀 由美子 氏

ファシリテーター: 朴 善子 公益財団法人日本補助犬協会 代表理事

第一部 ～補助犬の育成現場から～

それぞれの立場（育成に携わるボランティア、協会スタッフ等）から補助犬の社会的存在の価値を改めて認識して頂きます。

○パピー犬ファミリー

疋田ファミリー



○コースチェンジ犬ファミリー

野村ファミリー



○引退犬ファミリー

奥ファミリー

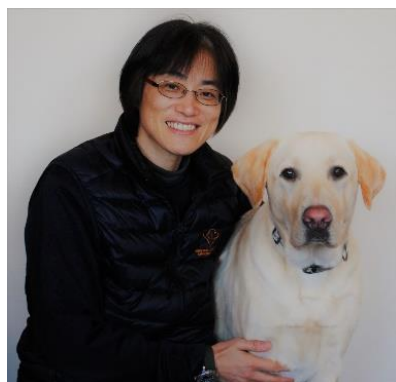


○補助犬の訓練について

○感謝状贈呈式

ファシリテーター： 雑賀 由美子

公益財団法人日本補助犬協会 訓練部長
盲導犬歩行指導員、白杖歩行指導員、社会福祉士



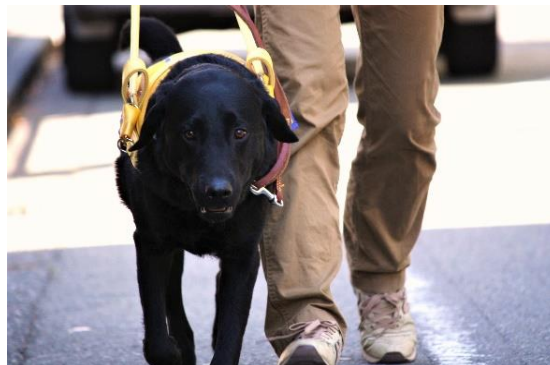
昭和61年より200頭以上の盲導犬育成に携わる。
訓練の傍ら通信制の大学を卒業し、白杖歩行指導員養成講座を受講。
その後、通信制の専門学校を卒業し、社会福祉士の資格を取得。
日本補助犬協会の設立に参画し、介助犬・聴導犬の育成も行う。

第 二 部 ～補助犬ユーザーの立場から～

補助犬ユーザーの皆様からそれぞれの日常から就労時を含めて社会参加する際の困りごとを
討論して頂きます。

○盲導犬ユーザーの日常

山梨県の皆様



○介助犬ユーザーの就労

岩手県の皆様



○聴導犬ユーザーの困りごと

神奈川県の皆様



ファシリテーター： 安杖 直人 公益財団法人日本補助犬協会 広報部長
社会福祉士、介助犬ユーザー



平成5年防衛大学卒業 幹部自衛官として陸上自衛隊名寄駐屯地、富士学
校で勤務。平成13年交通事故で脊髄を損傷し、自衛隊を退職以後、介助
犬ユーザーとなり、日本補助犬協会に就職。現在に至る。

東京都オリンピック・パラリンピック教育支援事業として年間50校以上
の小中学校の補助犬介在授業を障害当事者講師として実施。その他教育機
関や各種イベントでの補助犬啓発活動も多数。

第 三 部 パネルディスカッション

「誰一人取り残されない社会」を目指して、社会に何ができるのかということ、それぞれの立場から討論して頂きます。

「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」政府による取り組み
内閣官房 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部
参事官補佐 栗田 信行 氏

テーマ：「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」加速化への取り組み
～心のバリアフリー～

パネリスト：	オリンピック・パラリンピック等経済界協議会	名畑 徹 氏
	トヨタ自動車株式会社	藤澤 誠 氏
	公益社団法人 東京都獣医師会	小林 元郎 氏
	全国補助犬ユーザー連合会	青木 保潔 氏
	全国介助犬ユーザー連絡会	阿部 容子 氏
	全国聴導犬ユーザー連絡会	福永 順子 氏
	公益財団法人 日本補助犬協会	桑原 奈知子 氏
	全国補助犬育成・認定法人連合会	雑賀 由美子 氏

ファシリテーター： 朴 善子 公益財団法人日本補助犬協会 代表理事

～ご紹介～



公益社団法人東京都獣医師会
副会長 小林 元郎 氏



全国介助犬ユーザー連絡会
代表 阿部 容子 氏



全国聴導犬ユーザー連絡会
代表 福永 順子 氏

障がい体験ワークショップ

障がいのある方が抱える困難や痛みはどこにあるのか。本ワークショップを通し、様々な不自由さを体験することで生活の中のバリアに気づいて頂きます。

開催時間：第一回 13:00~13:30

第二回 14:15~14:30

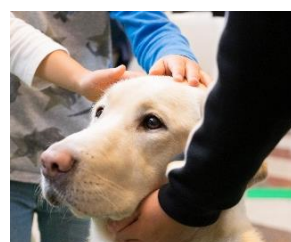
第三回 15:15~15:30

*手話教室

*視覚障害体験

*点字体験

*車イス体験



《 補助犬ガイド士とは？ 》

身体障害者補助犬法はその第7条において「国等（国及び地方公共団体並びに独立行政法人、特殊法人）は、その管理する施設を身体障害者が利用する場合において身体障害者補助犬を同伴することを拒んではならない」と定めています。またわが国は2014年1月「障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）」を正式に批准いたしました。批准に先立ってさまざまな制度改革が行われましたが、特に「障害者基本法」の改正と「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法2016年4月1日施行）」では、民間事業者も含めて受け入れのみならず、サービスの提供を拒否あるいは制限することも禁止しております。

したがって、受け入れ義務を有する施設管理者はその法的義務を把握し、受け入れ知識とノウハウを持つ人材を適宜に配置することが求められることとなります。しかし組織コンプライアンスが問われる時代にありがたなら、法的受け入れ義務がある施設に補助犬の受け入れを拒否された補助犬ユーザーの報告が後を絶ちません。

その要因の一端は、日本の補助犬実稼働数が約11,000頭（盲導犬を除く介助犬と聴導犬については150頭）と少なく、現場での受け入れ実践の機会が限られている事に加え、施設管理に従事する担当者に補助犬に関する知識がない事があげられます。そこで、補助犬に関する基礎知識を習得した人材を育成することを目的に「補助犬ガイド士」資格付与事業を2014年秋より開始いたしました。

「補助犬ガイド士」は、3種類の補助犬ユーザーが施設を一般の方々と同じように利用でき、受け入れ施設事業者も円滑な業務運行ができるよう、ユーザー・利用者・事業者を結ぶ懸け橋となります。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたっては、障害者権利条約批准国としての対応が国際的に問われますが、「補助犬ガイド士」を育成し、適切な対応に努めてはいかがでしょうか。

《 補助犬ガイド士に期待される役割 》

1. 受入れ体制の確立

- * 「ガイド士」配置による施設内窓口の一本化
- * 系列施設内での対応の一本化
 - 正しい情報窓口を設置する事で、受け入れに関する混乱を回避できる

2. 従業員への教育

- * 受け入れはコンプライアンスとして位置付ける
- * 補助犬の正しい基礎知識の習得（種類の確認・対応のポイント等）
 - 「ガイド士」の配置により、施設利用者へ適切な補助犬の説明が可能となる

《 補助犬ガイド士レベル別一覧 》

【初級】 **～心のバリアフリー検定～** ・ 2時間 ・ 講義＋（グループセッション）・ 検定試験



国は、東京 2020 オリ・パラ競技大会を契機に「誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現」を目指し、国民に「心のバリアフリー研修」を推進しています。本検定では「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」に基づいた研修プログラムの内容をカバーしており、身体障害者補助犬ユーザーの困りごとについても網羅しています。全ての人を対象としています。

【中級】 **～サポートガイド検定～** ・ 2時間 ・ 講義＋実技 ・ 検定試験



初級を受講された方が次に進むステップとして実技研修があります。視覚障がい者、車椅子使用者、聴覚障がい者の方々へのサポート、また、身体障害者補助犬を伴ったの方々へのサポート方法の基本を講義と実践を通して習得して頂きます。

共生社会の実現を目指す社会のすべての方が対象です。

【上級】 **～補助犬ガイド検定～** ・ 3時間 ・ 講義＋実技 ・ 検定試験



初級、中級2つの検定（他団体の検定等も含む）を受講された方は、補助犬ガイド士の資格認定に進むことができます。この検定では、身体障害者補助犬の知識や補助犬ユーザーの接遇方法などを身に付ける為の実技研修です。本格的な専門知識が必要な方、また、補助犬の普及・啓発にご興味のある方が対象です。研修後検定試験を以て認定致します。

《 資料につままして 》

「心のバリアフリー検定」は補助犬ガイド士の初級に相当します。

「補助犬ガイド士養成講座」のバインダーにまとめられるようにバインダー用のクリアケースに収めさせていただきます。 ※こちらのバインダーは【上級】補助犬ガイド検定受講時に差し上げています。



3段階の検定・講座をすべて受講されますと一冊のテキストとして保管できます。

末永くお使いいただけますと幸いです。



GUIDE DOG & SERVICE DOG & HEARING DOG
ASSOCIATION OF JAPAN

公益財団法人
日本補助犬協会
(盲導犬・介助犬・聴導犬)

- 本部兼横浜訓練センター 〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1954-1
電話:045-951-9221 Fax:045-951-9222
- 認定免許センター 〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1954-2

E-mail◇japan@hojyoken.or.jp ホームページ◇<http://www.hojyoken.or.jp>